

平成22年9月30日

九州農政局長 殿

事業実施主体名:セブンフーズ株式会社
代表者名:前田佳良子



広域連携アグリビジネスモデル支援事業評価報告書

広域連携アグリビジネスモデル支援事業実施要綱(平成20年3月31日付け19経営第7733号農林水産事務次官依命通知)第9の1の規定により別添のとおり報告する。

22 九生第1549号



様式第3号

広域連携アグリビジネスモデル支援事業評価報告書

事業実施主体の名称 (せぶんふーずかがいしや)	(まえたかよこ)
セブンフーズ株式会社	代表取締役 前田 佳良子

(注) 事業実施主体名には上段にふりがなを付けること。

1 成果目標達成に向けての取組内容

1. 関連事業者との連携

本事業の実施に当たり当初事業計画が繰越になったことから、平成20年1月からの母隊導入が開始となり、出荷についても平成20年11月から開始となるなど、実績平成20年度からの事業開始となった。そのため平成20年度の出荷頭数としては、計画26,607頭に対し実績9,074頭と34.1%にとどまった。平成21年度は出荷頭数23,592頭で計画の88.6%であった。その状況は、哺育総数30,471頭であったが、雑乳事故率3.1%、肥育事故率5.9%と事故率が最大の原因である。今後は交配頭数の確保及び分娩率の向上を図るとともに事故率を最低限に抑えることにより、出荷頭数についても目標時の頭数を達成できるよう努力していく。なお、成果目標である関連事業者との取引数量の割合については、全量スターゼンミートグループへの出荷により連携シェア100%と当初の目標を達成している。

2. 基本構想における目標とすべき所得水準到達者の育成

所得水準到達者の育成目標については、平成19年度に1名の構成員()が所得水準を達成しており、今回当初より計画していた2名の構成員()についても、計画通り目標年度において所得水準7,500千円の目標を達成した。

2 成果目標の達成状況

※生産者・実需者連携事業の場合

(1) 関連事業者等との連携

連携作物の取扱数量の目標		現在	目標達成プログラム	
連携作物名	関連事業者等名		4年度目 連携分/全取引数量	連携分 増加量
肉豚	(株)スターゼンミートグループ	2,925/2,925	23,592/23,592	20,667
小計		2,925/2,925	23,592/23,592	20,667
		/		
小計		/		
合計		2,925/2,925	23,592/23,592	20,667
達成率			100%	

(注) 記入については、事業計画書の4の(1)に準ずる。
※計画書と同一の場合には記載の省略も可

(2) 基本構想における目標とすべき所得水準到達者の育成

目標とすべき基本構想の所得水準			目標達成プログラム		
関係市町村名	営農類型	構成員数B	所得水準	現在年度	4年度目
				熊本県菊池郡大津町	養豚
			千円	人	人
計		3人		0人	2人
合計		3人		0人	2人

- (注) 1 記入については、事業計画書の4の(2)に準ずる。
 2 成果目標の達成率は、(実績-計画) / (年度計画-計画) × 100により求めるものとする。(小数第2位は切り捨て、小数第1位まで記入する)
 なお、(実績-計画) = 0、(年度計画-計画) = 0となる場合の達成率の記入方法については、以下によるものとする。

計画時	年度計画	実績	(実績-計画) / (年度計画-計画) × 100	記入方法
0	0	0	(0-0) / (0-0) × 100 = 0 / 0 × 100	100%
0	α	α	(α-0) / (0-0) × 100 = α / 0 × 100	皆
α	α	α	(α-α) / (α-α) × 100 = 0 / 0 × 100	100%
α	α	β	(β-α) / (α-α) × 100 = (β-α) / 0 × 100	皆

- 注意：α及びβは、0以外の数値をいう。
 3 「達成状況(評価)」欄は、当該年度の達成率が70%以上の場合は「○」を、70%未満の場合は「×」を記入すること。
 4 「(2)基本構想における目標とすべき所得水準到達者の育成」については、別紙「構成員別達成状況調書」を添付すること。
 ※計画書と同一の場合には記載の省略も可

3 施設の利用計画に対する利用状況

利用計画	未利用資源活用施設 (単位 t)	利用率 (%)	達成状況
	1,388		
平成18年度	0	0	×
平成19年度	0	0	×
平成20年度	0	0	×
平成21年度	0	0	×

(注) 1 当該事業により整備した機械及び施設のすべてについて記入する。

2 「達成状況」欄は、当該年度の達成率が70%以上の場合は「○」を、70%未満の場合は「×」を記入すること。

利用計画	高生産性農業用 機械施設 (単位 頭)	利用率 (%)	達成状況
	23,677		
平成18年度	0	0	×
平成19年度	0	0	×
平成20年度	6,514	27.5	×
平成21年度	20,899	88.2	○

(注) 1 当該事業により整備した機械及び施設のすべてについて記入する。

2 「達成状況」欄は、当該年度の達成率が70%以上の場合は「○」を、70%未満の場合は「×」を記入すること。

4 改善措置等

(1) 成果目標

--

(注) 成果目標の達成状況の「達成状況(評価)」の欄に「×」が記入された場合に作成することとし、未達成となった理由、達成に向けた措置等を記入すること。

(2) 施設等の利用状況

<p>本事業の実施に当たり当初事業計画が繰越になったことから、未利用資源の活用(堆肥施設)については、実質平成20年度からの事業開始となったため、当初計画で年間1,388トンの堆肥販売を計画していたが、導入開始の遅れと堆肥の床材としての再利用を推進したため、計画通りの堆肥販売量とはならなかった。平成21年度は堆肥の生産量としては年間2,000トンあったものの、作物と堆肥の組み合わせや施肥量などについて現在耕種農家との間で研究しているところであり、未だ販売には到っていないが、今後は実績を証明し、地域の耕種農家との連携を図ることにより、当初計画年間1,388トンの販売は可能と見込まれている。</p>

(注) 施設の利用計画に対する利用状況の「達成状況」の欄に「×」が記入された場合に作成することとし、利用率が低調な理由、その要因の分析と改善に向けた措置等を記入すること。